

イエスは 主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 140号

沖へ誘うイエス

ルカ5・1～11

有馬 歳弘



第42回関東アシュラムに、赴任して3年目になる教会から信徒の方々が出席しました。私を入れて5名、内3名は初参加でした。後で聞くとところによると、出席するまでは内心不安であったようです。アシュラムと言う用語や、プログラムの各用語が馴染めなかったのが一つ、そしてアシュラムの手引きを前もって読んで見て、緊張感を持ったことにあったようです。しかし、実際は大きな喜びに充滿を覚えて帰ってきました。続けて次回も出席しようと声を交わしています。

その後、出席した者たちで、毎月一回集まって祈りの細胞を開始しました。司会者が心に残った喜びを分かち、聖書の箇所を示して静聴をします。その後各自のニードを分かち合って祈る、というシンプルなものです。そして、日々の祈りに覚えるように努めています。

歩き出したばかりなので、成長し堅くされるように願っています。

ルカ福音書のこの記事はペトロが主イエスに出会い従った記事です。否、主イエスの方がペトロを訪ねて下さった記事です。群衆は「神の言葉を聞こうとして」押し迫っています。ペトロは「お言葉ですから」と言って網を降ろしています。「聞く」「従う」のは信仰生活の骨格でありますし、アシュラムで大切にしているところでもあります。

「夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした」(5)とペトロは言います。勞して何も得ない時、空しいものです。途方に暮れるものです。ただ網を洗って明日もまた、今日行った漁場に出掛けることを考えています。この世のなりわいに生きる人間に神の言葉を聞く暇はないと考えてしまいます。

このことは、まだ信仰生活を始めていない人々の思いのみならず、信者の日常生活にも入り込んでくる誘惑です。しかし、主イエスはペトロの舟に乗り込んで「沖に漕ぎ出し網を降ろし、漁をなさい」(4)と誘います。ペトロの常識を越えた誘いでした。ペトロは「お言葉ですから」と言って網を降ろします。これは「あなたの言葉のみをたよりに」との内容です。大漁でした。彼は「罪の意識」に襲われ、「わたしから離れてください」と言います。主イエスは彼に「恐れるな」と救いを与えて弟子とされます。人間を漁る沖へと誘われるのです。始まった祈りの細胞に「沖へ出なさい」との主イエスの誘いを覚えます。

(日本キリスト教団青梅教会牧師)

想 霊

「目標をめざして」
フィリピンの二二一四

東京新生教会牧師 横山 義孝



一九七三年一月二五日八九才の生涯をもって召されたE・スタンレージョンズ師はその大半の六〇年余をインドの救いのために献げた聖徒です。特に晩年の二十年間を第二次大戦で敗北し疲弊した日本の同胞の救いのために献げられました。二年毎に来日して全国伝道を展開する傍ら、アシュラム運動を日本の教会に植付けて下さったことは誠に感謝すべきことです。スタンレーの狙いは、日本のクリスチャンの霊的資質が向上して、救霊・伝道のわざに大きな進展がみられるようにという点にあったのです。彼は絶えずキリストによって捕えられた絶大な恩寵の故に、何とかして宣教者・救霊者として目標を達成したいとのビジョンに燃えていました。実はフィリピニ第三章は、伝道者パウロを捕えた神の言でした。これを学び恵を頂きたく存じます。

ここにはキリストに捕えられたパウロと、それ故に何としてもキリストの死と復活の恵に達したいと切に求めているパウロの姿があります。前者は云うまでもなく、あのダマスコ途上で劇的にイエスの顕現に触れ、迫害者パウロから、伝道者パウロへと百八十度の回心に導かれた恩寵の出来事です。クリスチャン達を徹底的に迫害し、一人残らず獄に入れることが自ら神から受けた使命だとの確信に火と燃えていた彼の矛先を変えることのできる者は一人も居ませんでした。彼の無知、誤りに終止符を打たせる事のできるのは、まことに生きておられる神以外にはありません。

キリストに反逆する者を、神はこれを滅ぼすのでなく、彼の非を自ら認めさせて、真実の悔改めと信仰へと導かれたのです。神の恩寵の深さ、高さを讃美せざるを得ません。「わたしの主キリストイエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損とみなしています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています」(フィリピ三の八)と彼は告白しています。ここに信仰による恩寵の秘義があります。パウロは神ご自身による一方的な、神の恩寵と恵に与かって決して自己満足に陥っていないのです。実に霊的

生命は魂に注がれた瞬間から、より旺盛な生命の活動となって、神ご自身が示される完全な目標に向かって前進させるのです。一般の肉体的生命もそれが旺盛な証拠は、更に知性的にも人格的にもより完全な姿へと成長したいとの渴望を豊にするのと似ています。「わたしはキリストとその復活の力とを知り、その苦しみに与かってその死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです」(同三の十一)と告白している通りです。パウロが「わたしは罪人の中で最たる者です」(エテモテ一の一五)と懺悔し、「月足らずに生まれた様なわたし」、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれる値打ちのない者」(エコリント一五の八一)と告白しているのは、自分を卑下した、上への謙遜を装っているのではないのです。そうではなくて、主イエスキリストご自身から頂いた恩寵のあまりの絶大さにただ打ちのめされる程になって主を讃美しているのです。「わたしは、既にそれを得たというわけでもありません。何とかして捕えようと努めているのです。自分がキリストイエスに捕えられているからです」(同三一一二)と告白しているのも恩寵に満たされた信仰者のありのままの姿以外のものではありません。

彼の生涯の目標には第一に伝道者、救霊者としてのそれがあります。「何とかして何人かでも救うためです。福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それはわたしが福音に共にあずかる者となるためです」(エコリント九の二二―二三)。

彼が伝道の生涯に於いてあらゆる苦難、鞭打ち、難船、飢え渴き等、その肉体に一日もなま傷がたえなかつた(エコリント一一の二四―二九・ガラテヤ六の一七)とある言葉がこれを証しています。第二に彼は教会の完成、キリストの体としての地上の教会のために労苦し、目標に向かって努力と祈りを献げています(コロサイ一の二四) 第三はキリストイエスの来臨の日に、自らの内に清さが全うされているようにとの、人格品性とそわぎの完全を願ってやみませんでした(エコリント七の一)。

これらは凡てキリストイエスの恩寵に何としてもお答えしたいとの渴望から生じたものです。我らも聖霊によってこの恵に達するものとされましょう。



証 「アシユラム参加の恵み」

小林 勝

初めてアシユラムに参加する機会を作ったのはアシユラム運動に長く携わっていられた東岡山治先生でした。二十数年前、当時の私の周囲の状況は、河内長野教会の牧師で色々とお世話になりご指導を頂いた牧師が、様々な事情からやむを得ず同心の信徒たちとともに教会を出られて新たに教会を設立する事になりました。この教会は今年で百周年を迎えますが、戦後キリスト教主義の学校を戦前の幼稚園の上に中学校と高校を創立しました。それは日本で唯一教会が生み出したキリスト教主義学校として歩みが続けています。そのような状態のなかで学園の教職員と共に精神的な痛みを抱える時期でした。教義の教えだけでは解決できない問題を抱いて、具体的な解決方法を求めて日本基督教団出版局主催の「信徒の友セミナー」に参加しました。講師の一人として東岡先生がご奉仕なさっておられ、私の心の痛みをお聴きくださいました。先生のご返事は短く且つ適切で、先生も若き日に具体的な悩みのなかでアシユラムに参加して解決された体験を述べられました。「是非貴方も参加してみなさい。」と紹介された

のが関西アシユラムだったのです。

日本基督教団河内長野教会の元牧師が設立された育英社に救われ、同じく元牧師で学園の初代理事長であった先生が千里ニュータウンで開かれた保育園で生活と学校の両立をしながら何処に自分が居て、これからどの方向に進んでいくのか示されつつ歩んできた者にとってその方向が示されなくなったことと、共に祈る牧師や人々を感じる事が出来なくなった時ほど孤独に陥ることはありませんでした。大勢の群れの中でも、一人一人の関係でも、聞き、答えをくださる牧師や神の存在を覚える機会がないと成長の変化がない状態に陥ります。その後アシユラムに参加する内に開心、静聴、充滿、献身、奉仕の五つの具体的な信仰姿勢を学び、導かれる助言者、牧師や信徒の先輩方と共に主の御霊の導きと参加者の祈りに支えられて、難しい局面を乗り越えることが出来ました。周囲の方々もそれを見ており、教会と学園の安定にも貢献したのではないかと思っています。ファミリーの一人一人の祈りは常にあつて、教会長老の重責にある間も支えてくださっていました。

関西アシユラムから榎本アシユラムが作られたと聞いていますが、長男がその方に参加する恵みを得て、配偶者と出会い、当教会の長老と執

事としてご奉仕させて戴いているのも感謝です。関西アシユラムの書記のご奉仕をするなかで恵まれていたのはむしろ私のほうであり、長年共に歩んで来ました牧師・信徒のアシユラム家族と共に働き続けられる恵みを感じています。

第三六回城北アシユラム報告

川村 秀夫



毎年二月十一日は四教会持ち回りの城北アシユラムが開催されています。今年度は第三六回目の城北アシユラムに当たり当番教会は新宿西教会でした。

当日は祭日でもあり、信徒の方々の参加がし易いようにとの配慮から毎年この日が選ばれています。城北アシユラムは城北地区の池の上キリスト教会、更生教会、天門教会、新宿西教会の四教会が協力し合い、毎年開催しているアシユラム運動です。例年ですと五〇名から七〇名程度の参加者が与えられるところですが、本年度の参加者は残念ながら例年に比べて少なく総勢で三五名でありまして少し寂しい思いがいたしました。当番教会のPR不足を深く反省しております。新宿西教会から十四名参加が与えられました。池の上キリスト教会牧師島津吉成師の「開心の時」に始まり、アシユラムを進めるにあたっての五原則を判りやすく話されました。まず自らの心を開き、キリストに明け渡すことから始め、聖書の御言葉から聞き取り、その中からそれぞれが今日持つてきたニードに対して、どのような恵みを頂いたかを互いに分かち合う時であることを話されました。静聴の時は天門教会の石川深香子牧師が病気のため代わって西川口教会の金田佐久子牧師が務められました。指定された聖書箇所ヨハネによる福音書一五章を、心をはずめてしづかに聞くように読み、各自がそこからどの様な恵みを与えられたかを分かち合う時でありました。

「福音の時」は更生教会牧師原田謙師が「主が与える平安」と題してヨハネによる福音書一四章二七節を中心に力強くメッセージを語られました。「主が与える平安」とは具体的にどの様なことか、師はご自身の体験を通して語られました。師は小学生の高学年の時に満州で終戦を迎えられました。師の父親はその時突然兵隊に連れ去られ、母親と子たちだけになりました。父親が連れ去られた時、師は非常な不安と恐怖に襲われましたが、その中で母親が家族を集めて祈りを捧げたそうです。師も必死な祈りを捧げていくうちに、ほんとうの平安が与えられたそうです。そして多くの迫害を受けながらも日本に帰国することが出来たとのことでした。この証を聞いて私は主のご臨在を強く感じる事が出来ました。感謝でした。

今回は参加人員が少なかったこともあり、どの祈りの細胞も参加者が三名から四名であり十分な時間がとれ、充実した祈りが出来たことは恵みでもありました。

最後に、参加者全員が手を繋ぎ一つの輪を作りアシュラムの歌をうたい、「イエスは主なり」の賛美の三唱と「イエスは甦られた」に対して「イエスは実に甦られた」と応答してこの会を閉じました。まことにまことに恵みの多い一日を過ごすこと

が出来ましたことを感謝しております。

第二二回東京新生教会
アシュラム報告



05年二月十九日(土)―二十日(日) 第十二回アシュラムが開催されました。十九日午後七時「開心の時」をもって開会。横山牧師によって「震われない御国と、変わらない人格」(ヘブライ十二の二八、十三の七)のメッセージが語られ、参加者十六名全体による開心の時が持たれました。続いて八時から九時、三分団に分かれて「グループの祈り」(I)に入り、お互いのニードが分かちあわれ、右隣の人がその人のため

に祈りました。各分団は流れ解散で自宅に帰り、十時から翌朝七時での「連鎖祈禱」の時。予め祈禱表に申出てある時間帯に一時間、定められた聖書テキストを読み、また会員相互のため、また教会諸活動、その他課題のために祈りました。二十日午前九時四十分から十時二〇分まで「静聴の時」をもちました。テキストはエフエソ四の一―三二と詩五一篇。静かに聖書を読み、心に留ったところ、昨夜の連鎖祈禱で受けた恵みを分かち合います。十時三〇分より「公同礼拝」。立証者細木馨兄(西川口教会)が立てられ(当日ご夫婦で出席)十五分ほどの証が語られました。同兄は建設業を営んでおり、厳しい労働の中にも祈りを絶やさず、特に聖書を筆写するとの事、御言葉の恵に満たされた生活についての立証でした。礼拝メッセージは「目標をめざして」が横山牧師によって語られ、礼拝後午後一時迄昼食愛餐の時。細木馨、貞子夫妻を囲んで教会相互の良き交わりが与えられました。午後一時より二時まで「グループの祈り」(II)。分団が一つ増えて、昨夜からのプログラムの中で受けた恵み、また家族伝道等の課題のために分かち合いと祈りの時が持たれました。最後に三時迄「充滿の時」。一人々々が、み言葉と祈りの中で受けた恵みを全員(二四名)で分かち合い、

今年度の教会活動のために二人宛組んで祈り、全員で「イエスは主である」を唱えて終了しました。

ハレルヤ

50周年記念各地区アシュラム予告

●第43回関東アシュラム
とき 05年9月19(月)から21(水)

ところ 山崎製パン箱根山荘
助言者 小島 十二師

●第39回関西アシュラム
とき 05年10月9(日)から10(月)

ところ 関西学院大学・千刈セミナーハウス
助言者 横山 義孝師

●第10回富山アシュラム
とき 05年9月19(月)から20(火)

ところ インテックス大山研究所
助言者 有馬 歳弘師

各地区の諸活動に祝福を祈りつつNo.140をお送りします。(Y)

東京都目黒区中央町1の21の10
碑文谷教会寄付
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座 東京〇一〇〇一―四五五八
理事長 大石嗣郎
編集人 横山義孝
定価 一部60円 千80円